第８回夏期臨床練成セミナー　2018

平成 30 年 8 月 4 日（土）・5 日（日）10：00 ～ 17：00　会場：ＡＰ横浜駅西口
（横浜駅西口より徒歩 7 分）　受講料：律動法・新鍼灸法共に , 2 日間 120,000 円 昼食付
主催：一般社団法人律動法協会　半身症候鍼灸研究会。白衣上着持参。

毎年恒例の最高峰手技治療・鍼灸法合同短期集中セミナー

医療界をリードする新鍼灸法と手技治療（律動法）

近年、手技治療、カイロプラクティック界はＳＯＴ（仙骨・後頭骨テクニック）、頭蓋仙骨治療（クラニアル・セイクラルテクニック）が流行している。理論が高度になっても比例して感性が向上しているだろうか？臨床家の自身の感性がなければ理論の高度が故に、すべて邪気治療になる。脳の動きも、脳硬膜の動きも知覚できない者が診断もできない頭蓋骨調整に舞い上がっている。近年の手技治療界はその傾向が強い。

手技治療界は、オステオパシーのサザーランド、カイロプラクティック界のディジョネット、ピック、ＡＫのグットハートを初め多くの天才治療家が現れた。それに比較して、鍼灸界に天才はいたのだろうか？少なくとも近年、中国にも古代鍼灸理論を超える天才の伝承はない。中国の祖伝秘法を直弟子以外に伝えない文化。儒教では弟子は師を越えない伝統があった。天才医師がいてもその技、理論は秘匿されただろう。つまり古典鍼灸界、中医学鍼灸界は公開しても良いもののみ伝承されている。それが中国でも、国内でも種々疾患、難病が治らない鍼灸が広まっている理由である。

日本鍼灸師よ！アメリカカイロプラクティック界にはこの一世紀の間、目白押しに天才が現れたのである。日本鍼灸界にはたった一人の天才さえ出ない。なぜ鍼灸師は難病者を治すことにことに挑戦できないのか？

なぜ、自身で人体を、治療を考えないのか？３，０００年前の理論を検証せずに執着するのか？群れてばかりいて治そうとしないのか？なぜ、治さないで病人を平気で食い物にするのか？人体を知らず、鵜呑みにした古代人の理論を、人体に当てはめるのが治療だという。まず、治療家は自身の身体の現象を知ること。古典理論、中医学理論をまねても自身の生理現象、病的現象の意味を誰も知っていないことすら気づかないから、人を治せないのである。

セミナー参加条件：

新鍼灸法：古典理論に疑問を持つ人のみ。美容鍼灸に関心のない人、高度治療を求める人。

律動法：最高の治療法、テクニックを求める人。

手技治療家は
脳・硬膜の動き知る！

鍼灸家は、脳と動・静脈、
全椎間板ヘルニアと内臓の
関係を診断！

治療家は、手技治療家も鍼灸家も一人ひとりが古代中国の神医、扁鵲に近づく使命がある！　可能な限り透視診断技術を伝授する。毎年１０人ほど透視診断の修得者が出現している。

鍼灸師は全疾患を治す鍼灸を見たことがない。臨床見学、常時受付けている。

セミナー内容は動画をご覧ください

扁鵲の透視治療を
私が指導します

写真は 70 人を同時集団治療
一般人対象の講習会にて

手技治療家、　鍼灸師、　医師へ！

国民は現代医療のすべてに不満を抱いている。多くの疾患、障害の原因を知らない現代西洋医学ばかりではない。手技治療界も、鍼も東洋医学という美名の元、治せない疾患、病気ばかり氾濫し、人々は苦悶している。西洋医学は対症療法、鍼灸も証と言う名の対症治療であり、治らない理論で治そうとする。人体を治すことに関心がない。治らない理論でも正しいとして、変えようとしない西洋医学と、3000年変えようとしない鍼灸。

新鍼灸法・律動法に共通する生体理論と治療理論

人体の気理論：治療上、最高位の生体機能を支配しているのは全身を満たし流動する気の存在である。新鍼灸法理論の基本である人体組織全体を区分する 3 種の領域の気の流動の調整ができないと、難治疾患、及び多疾患を高レベルでの回復はあり得ない。この 3 領域の病位を律動法では 3 種の骨盤症候という。生体は常時、この 3 領域の気の流動現象により、生体バランスを保持している。まさしくその病位側即ホメオスターシスである。3 領域の気とは動脈・静脈を主とする流れである。このように新鍼灸法、および律動法では症状、病気現象を即、生命を損なうという発想はない。新鍼灸法では、全疾患に１～２刺の０番鍼での浅刺のみの治療でである。それは全身組織の確実な診断法があるからこそ、すべて有効であり、無駄な刺鍼は一切ない。

律動法では全疾患に対して腰椎５番の律動現象上の変位の調整以外には一指骨に至る調整まで避けている。全身組織を、真正面から捉えた、骨格系、脳脊髄系を重視しているだけ、律動法は究極の手技治療修得への近道であることを自覚するべきである。

治せない治療家の宿痾

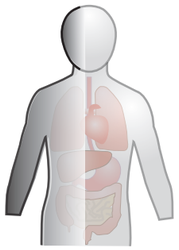
手技治療家：テクニック、理論に溺れる人。　鍼灸家：古典理論に依存して、人体を自分で知ろうとしない人。

新鍼灸法と律動法の気のとらえ方

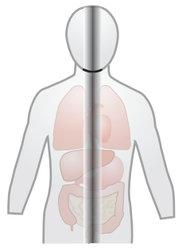
全身を満たす気の流動のとらえ方　　全身を縦に3分割する気の流動障害

右半身症候、左半身症候、中心症候。その複合6種の症候。 → 新鍼灸法
右骨盤症候、左骨盤症候、中心骨盤症候 → 律動法

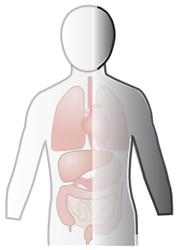
右半身症候
右骨盤症候

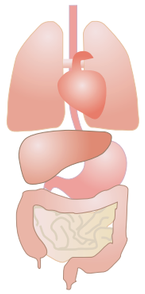


中心症候
中心骨盤症候



左半身症候
左骨盤症候





病位側は影の領域で、気の流動障害を示す

目標は内臓も脳内も透視する
心臓を視て手の脈状を知る

右半身症候（右骨盤症候）… 右脊髄灰白質の弛緩、右大脳皮質の弛緩、右側脳室、右小脳テントの変位、脳脊髄液（CSF）の上下還流障害

左半身症候（左骨盤症候）… 左脊髄灰白質の弛緩、左大脳皮質の弛緩、左側脳室、左小脳テントの変位、脳脊髄液（CSF）の上下還流障害

中心症候（中心骨盤症候）… 脊髄白質の弛緩、視床下部の弛緩、第三脳室の変位、小脳鎌の変位、小脳テント左右の変位、脳脊髄液（CSF）の上下還流障害

半身症候側と生体現象：もし右半身症候であれば、右脳、右肺、肝臓右葉、右腎臓、右小腸大腸。食道、胃の右半分が必ず機能低下している。触診、打診で明確に判別できる。左半身症候、中心症候も同様に各領域組織が機能低下している。3000 年の古典理論に記述がないこの現象を鍼灸師なら検証しなさい！

治療の理想…新鍼灸法も、律動法も望診が重要である。　それは狭義の望診でなく、全身の血液循環の状態、脊椎、四肢骨、骨盤、頭蓋骨、そして内臓、脳、眼球、心臓、腎臓、肺、脳動・静脈、脳内の聴覚の状況を透視する望診である。それらの正常・異常まで人体全体の診断としての望診をしておくもの。この望診が透視へと繋がっていく。

□筆者の河南中医葯大学病院での臨床披露…1993 年夏、河南中医葯大学病院にて、求めに応じ遠隔透視治療を披露する。腰髄腫瘍手術後の後遺症から強度の腰痛、坐骨神経痛で入院中の患者を治療した。中医師 2 人を伴って病棟の外 50 メートルの地から遠隔診断に次ぐ遠隔治療を行い治療後、病室で確認する。下肢の筋力が回復し、先に同患者を治療した医師より強くなる。周囲の大部屋の患者、中医師も集まって来た。